電気大正琴

こはく

ソプラノ	タイプ Ⅱ
アルト	バス

取扱説明書

この度はスズキ電気大正琴「こはくシリーズ」をお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。
本製品を末永く、そして安全にお使いいただくため、この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった取扱説明書は大切に保管してください。

SUZUKI

使用上のご注意

湿気は大敵です

水分や湿気の多い場所では、絶対に使用・保管しないでください。
故障や破損の原因になることがあります。

熱くなる場所を避けてください

自動車の中や暖房器具のすぐ近くなど、極端に熱くなるところでの使用・保管は避けてください。故障や破損の原因になることがあります。

ホコリっぽい場所は避けてください

ホコリの多いところでの使用・保管は避けてください。
故障や破損の原因になることがあります。

衝撃を与えないでください

楽器をぶつけたり、落したりしないでください。
製品に傷をつけるだけでなく、故障の原因になります。

不安定な場所に置かないでください

楽器を不安定な場所に置かないでください。落下をして思わぬけがをする恐れがあります。

ご使用の前には絃を確かめてください

ご使用前には、絃が傷んでいたり、切れかかっていたりしないか、確かめてください。傷んだ絃は必ず新しい絃に張り替えてください。万一演奏中に絃が切れますと、顔や目を傷つける恐れがあり危険です。

調絃時は顔を遠ざけて

絃の張り替えや調絃の時は、楽器に顔を近づけすぎないようにしてください。万一絃が切れますと、顔や目を傷つける恐れがあり危険です。

絃で手を傷つけないように

調絃や張り替え・お手入れのとき、絃の先端で手や指などを傷つけないように気をつけてください。絃を張り替えた後は、絃の不要な部分を切りそろえてください。

お手入れはやわらかい布で

お手入れはやわらかい布でカラ拭きしてください。アルコール・シンナー・ベンジン等は製品を痛めますので絶対に使用しないでくだい。

こはくシリーズの特長

■軽量

ソリッドボディーならではの伸びやかな音はそのままに、ギリギリまでコンパクト化することにより軽量化を実現しました。付属ケースもセミハードケースにするなど、極限まで軽量化を追及しました。

■高音域

スズキ大正琴、伝統の音色を継承しながらも、高音域において発生しがちなノイズを低減することに成功しました。透明感のある理想的な音の広がりを堪能できます。

■操作性

キーレバーをショートストローク化（浅く）することにより、操作のダイレクト感･剛性感がまし、より確実な発音と、より高度な演奏ができるように改良されました。

■音色

マグネットピックアップ※1だけでなく**ピエゾピックアップ**※2も搭載され（ソプラノ・タイプⅡ）、今まで以上の音色を創り出すこともできるようになりました。

※1　**マグネットピックアップ：**
エレキギターなどに使用されているタイプのピックアップです。

※2　**ピエゾピックアップ：**
アコースティックギターやスズキ大正琴「桂」「弁慶」などに使用されているピックアップです。

■美しいデザイン

大正琴の手前が内側に大きく入りこんだ形状は、軽量化とともに、今までの大正琴のイメージを一新する斬新なデザインです。またボディ、天板カバーともに、木目をそのまま生かした自然な美しさが魅力です。

目次

使用上のご注意・・・・・・・・・・2
こはくシリーズの特長・・・・・・3
目次・・・・・・・・・・・・・・・・・3
各部の名称とはたらき・・・・・・4

演奏の前に
調絃しましょう・・・・・・・・・・・6
調絃のしかた・・・・・・・・・・・・6
絃の張り替え方・・・・・・・・・・7
アンプについて・・・・・・・・・・9

演奏してみましょう
アンプとの接続手順・・・・・・10
アンプ接続時のご注意・・・・・11

演奏の後に
電源について・・・・・・・・・・・12
絃について・・・・・・・・・・・・12
電池交換について・・・・・・・・12
電池交換のしかた・・・・・・・・13

故障とお考えになる前に・・・・・14
こはくシリーズ仕様・・・・・・・15

各部の名称とはたらき

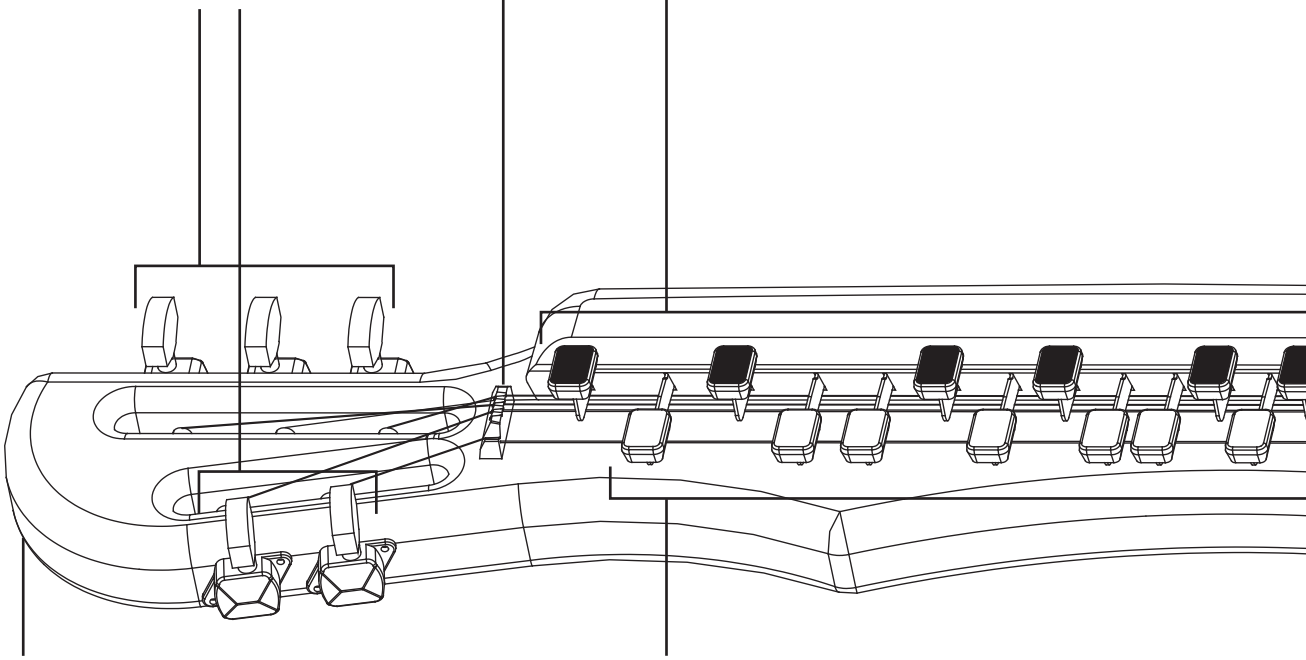
■絃巻

調絃時など、絃を巻く時に使用します。ソプラノは5個・タイプⅡは3個、アルトは5個・バスは2個、それぞれ絃の数と同じ数の絃巻がついています。時計方向に回すと音程が上がり、反時計方向に回すと音程が下がります。

■絃ガイド

溝に絃をのせます。
奥から第一絃→第二絃…の順です。

■音階ボタン（黒鍵）



■本体

■音階ボタン（白鍵）

■電源ランプ（ソプラノ・タイプⅡのみ）

電源ON時に点灯します。電池の残量が少なくなってくると、ランプが弱くなり、電池がなくなるとランプが消えます。電池交換の目安になります。

→　12ページ

■ピエゾピックアップ 音量ツマミ（ソプラノ・タイプⅡのみ）

ピエゾピックアップでひろう音の量を調節します。時計方向に回すとひろう音の量が多くなり、反時計方向に回すとひろう音の量が少なくなります。
（電磁ピックアップへ音が追加されていきます。）

注）内部回路で「マグネットピックアップ」と「ピエゾピックアップ」は、より特徴のある音が得られるよう、信号が打ち消しあう向きに接続されています。そのため、「ピエゾピックアップ音量ツマミ」を上げていくと、音量は少し小さく聴こえます。特に低音域が打ち消され、中高音域が際立つようになります。「ピエゾピックアップ」は振動そのものをひろうため、「ピエゾピックアップ音量ツマミ」を上げた場合、ピックが本体や絃駒に当たると、その音もひろいます。

■マグネットピックアップ

絃の音をひろいます。

■天板カバー

■絃駒(ソプラノ・タイプⅡのみピエゾピックアップ内蔵)

溝に絃をのせます。
奥から第一絃→第二絃…の順です。
演奏時に、本体に伝わる音をひろいます。

■絃駒ガイド

絃駒位置を固定します。

※イラストはこはくソプラノです

■絃掛け

絃の右端の輪になった部分を引っ掛けます(バスの場合は穴に通します)。絃を張り替える時は、最初に、この部分に絃を付けます。
→ 7・8ページ

■電源スイッチ

(ソプラノ・タイプⅡのみ)
電源のON/OFFを切り替えます。スイッチを右にするとONで左にするとOFFです。

■外部出力ジャック

アンプ接続時に使用します。→ 10ページ

■音量ツマミ

音量を調節します。時計方向に回すと音が大きくなり、反時計方向に回すと音が小さくなります。

■音色ツマミ

音色を調整します。時計方向に回すと硬い音になり、反時計方向に回すと柔らかい音になります。

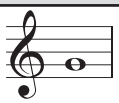
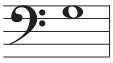
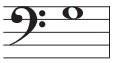
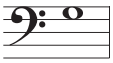
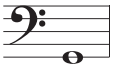
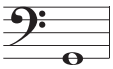
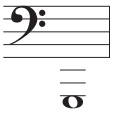
演奏の前に

調絃しましょう

絃は張っておくとわずかに伸びて音程が低くなりがちです。当社では調絃を完了済で出荷していますが、お買い上げ時には、音程を確認し、再調絃をしてください。

調絃のしかた

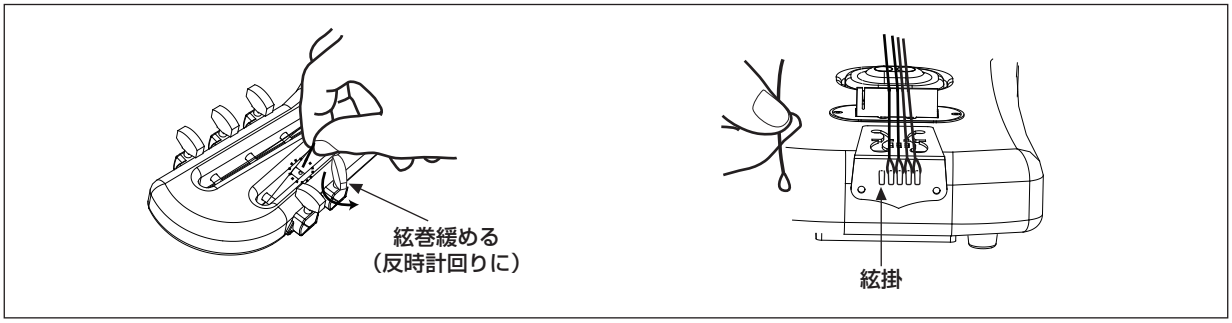
付属の調子笛を使って、調絃します。調子笛の音はソ（g^1）の音になっています。
開放（ボタンを押さえない）状態で、下表の音になるよう調絃してください。

調子笛の音	こはくの種類	絃	合わせる音
ソ(g^1)	ソプラノ	第1～3絃（細線）	 ソ(g^1) 調子笛の音
		第4･5絃（細巻線）	 ソ(g) 調子笛よりも1オクターブ低い音
	タイプⅡ	第1～3絃（細巻線）	 ソ(g) 調子笛よりも1オクターブ低い音
	アルト	第1～3絃（細線）	 ソ(g) 調子笛よりも1オクターブ低い音
		第4･5絃（中巻線）	 ソ(G) 調子笛よりも2オクターブ低い音
	バ　ス	第1絃（太巻線）	 ソ(G) 調子笛よりも2オクターブ低い音
		第2絃（極太巻線）	 ソ(G_1) 調子笛よりも3オクターブ低い音

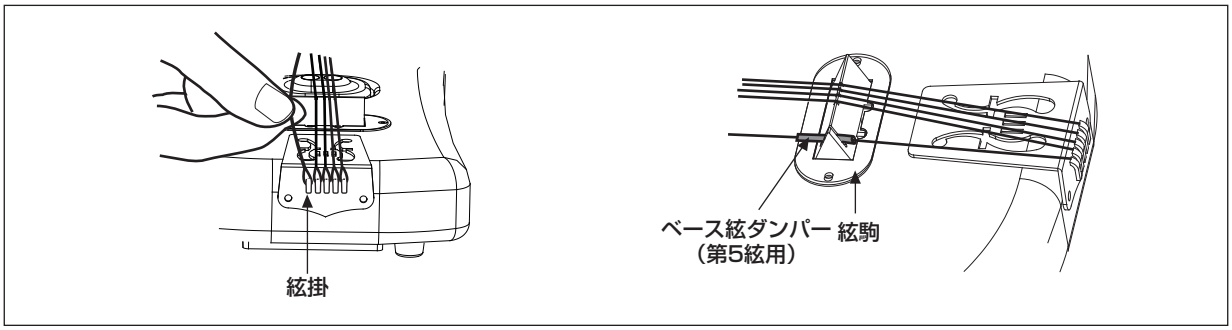
絃の張り替え方（ソプラノ・タイプⅡ・アルト）

絃は消耗品です。錆びたり、伸びきったり、切れかかっていますと音程が狂い、音色・音量も悪くなるだけでなく、演奏中に絃が切れる恐れがありますので、早目にお取り替えください。

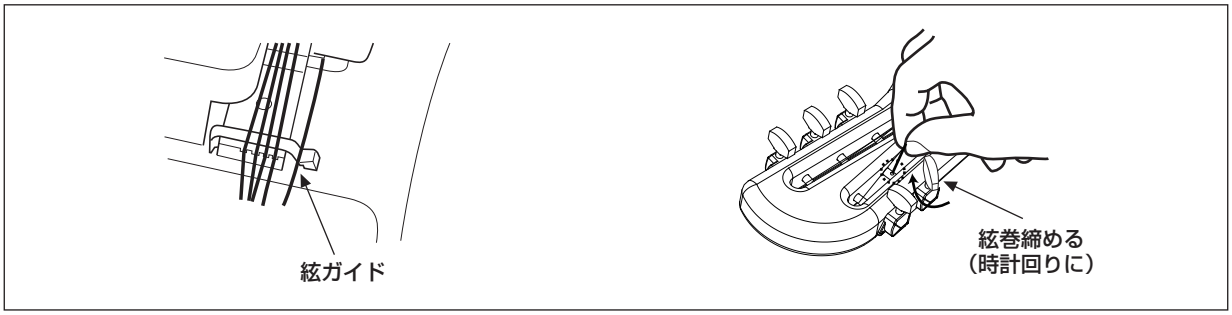
❶ 絃巻を反時計回りに回し、絃を緩め、古い絃を絃巻と絃掛から外します。



❷ 新しい絃を絃掛に掛け、絃を絃駒の溝に入れます。
※ソプラノもしくはアルトの第五絃を張り替える場合は、絃にベース絃ダンパーを通してから絃駒の溝に通します。



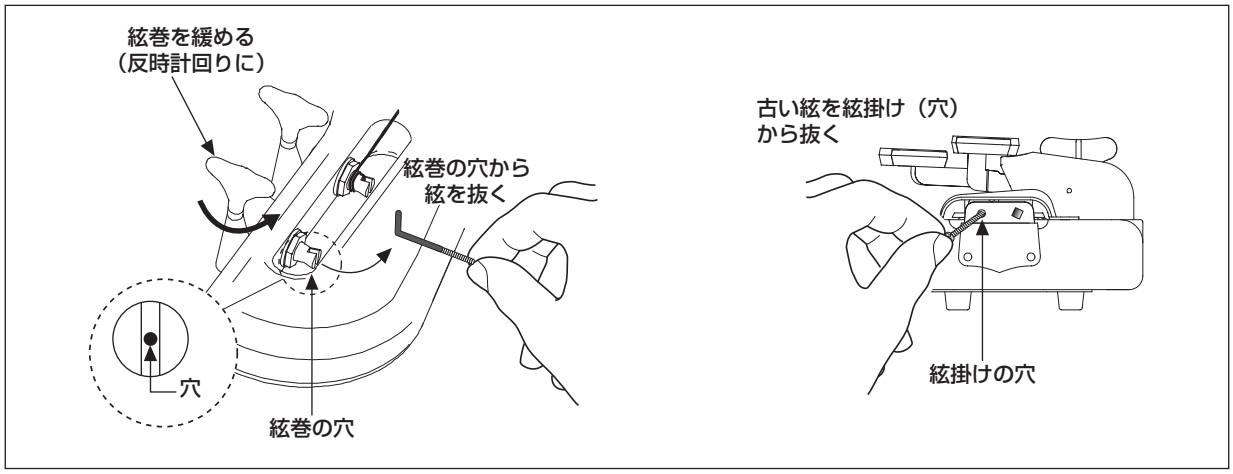
❸ 絃ガイドの溝に絃を入れ、絃を絃巻器の穴に通したら、絃巻を時計回りに回して絃を張ります。



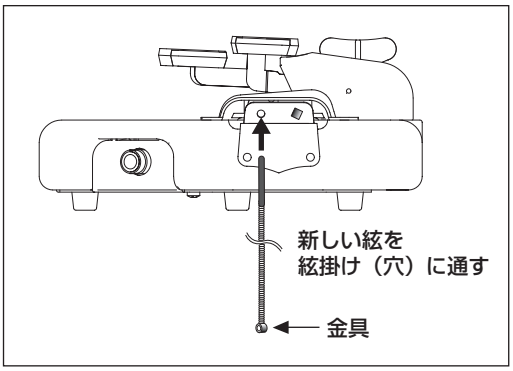
❹ 絃の張り替えが終わったら、調絃しましょう。

絃の張り替え方（バス）

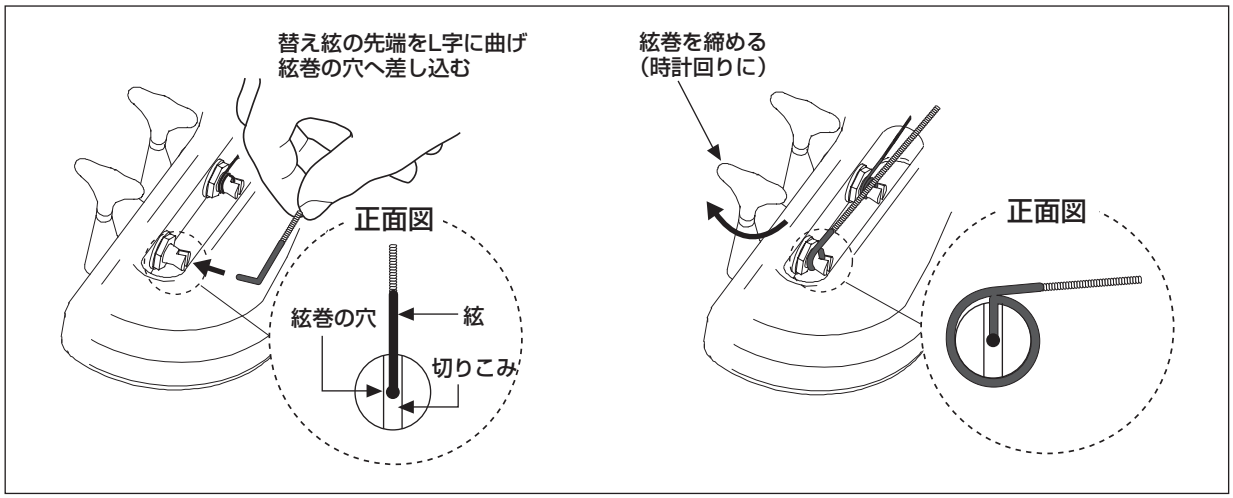
❶ 絃巻を反時計回りに回し、絃を緩めたら、古い絃を絃巻の穴から抜きます。その後、絃掛け（穴）から絃を抜き取ります。



❷ 新しい絃を絃掛け（穴）に通します。絃の端にある金具が穴で止まるまで絃を引っ張ったら、絃を絃駒と絃ガイドの溝に通します。



❸ 絃の先端をL字に曲げ、絃巻の穴へ通します。切りこみ部に絃を入れ、絃巻を時計回りに回して絃を張ります。



❹ 絃の張り替えが終わったら調絃しましょう。

アンプについて

こはくシリーズは電気式ですので、外部アンプが必要となります。
接続可能なスズキアンプは下表をご覧ください。接続のしかたについては、10～11ページをご覧ください。

【アンプのご紹介】

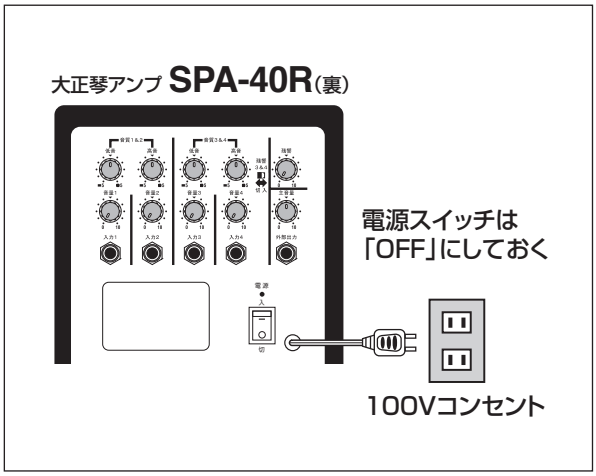
アンプ品番 / 仕様	SA-35/35T ※1	SA-65/65T ※1	SPA-03	SPA-40 ※1	SPA-40R	SPA-150R-L	レスリー2121 ※1
コントロール	音量･音質	音量･音質	音量･音質 効果	音量･音質	音量･音質 リバーブ	音量･音質 リバーブ	音量･音質
ジャック	入力	入力	入力	入力1･2 ライン出力	入力1～4 ライン出力	入力1～4 ライン出力	入力1～3 (マイク1･ライン2) ライン出力
こはくシリーズに適したジャック	入力	入力	入力	入力1	入力1～4	入力1～4	入力1
電源	DC9V (AC100Vアダプタ別売)	DC9V (AC100Vアダプタ別売)	DC9VまたはAC100Vアダプタ(付属)	AC100V	AC100V	AC100-240V	AC100V
出力	3.5W ※2	6.5W ※2	3W	40W	40W	150W	低音部 150W 中高音部 50W
消費電力	6.8W	10.9W	3.4W	30W	33W	45W	190W
寸法	8.5×12.5×21cm	8.5×12.5×21cm	26.2×17.4×22.3cm	24×22×32cm	24×22×32cm	32×31×62cm	51×50×76cm
重量	0.8kg/0.85kg (SA-35)(SA-35T)	0.83kg/0.88kg (SA-65)(SA-65T)	3kg	6.8kg	7kg	15kg	39kg
接続可能大正琴(こはくシリーズ)	ソプラノ タイプⅡ	ソプラノ タイプⅡ	ソプラノ タイプⅡ アルト	ソプラノ タイプⅡ アルト バス	ソプラノ タイプⅡ アルト バス	ソプラノ タイプⅡ アルト バス	ソプラノ タイプⅡ アルト バス

※1 現在SA-35/35T･SA-65/65T･SPA-40･レスリー2121の生産はしておりません。(2022年3月現在)
※2 専用アダプターAD1-1210(別売)使用時の出力です。乾電池使用時は電池の消耗などで出力は低下します。

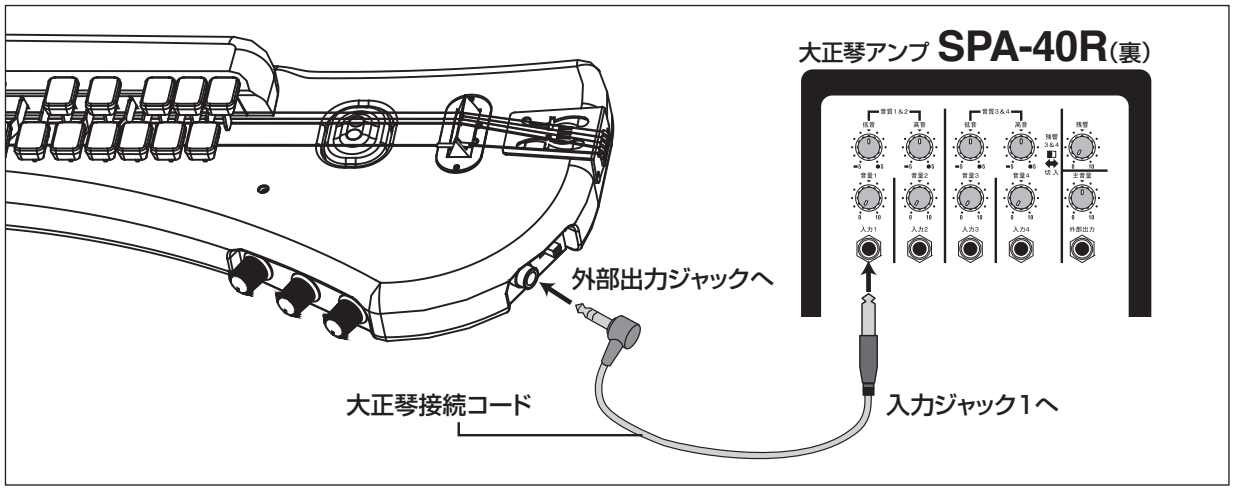
演奏してみましょう

アンプとの接続手順

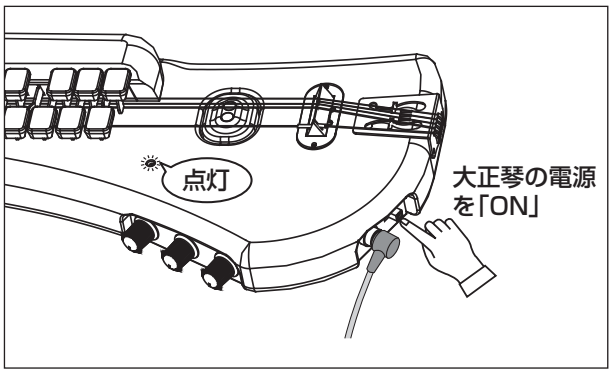
❶ アンプの電源プラグを100Vコンセントに差し込み（アンプを乾電池で使用する場合は必要ありません）、電源スイッチを「OFF」にしておきます。
※ここではスズキ大正琴アンプSPA-40Rを取り上げています。その他のアンプとの接続については、アンプの取扱説明書をご覧ください。



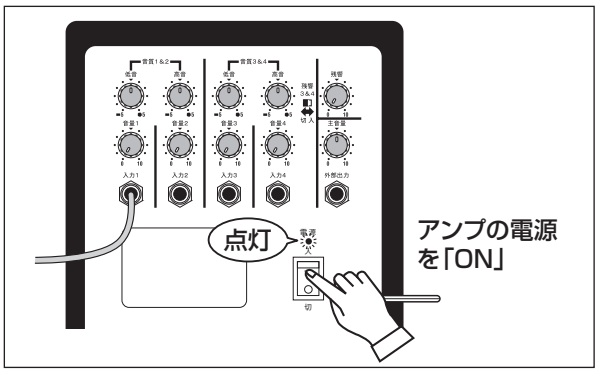
❷ 大正琴とアンプを、大正琴付属の接続コードで接続します。このとき、アンプ側の入力ジャックが複数ある場合は、「入力ジャック1」を使用してください。



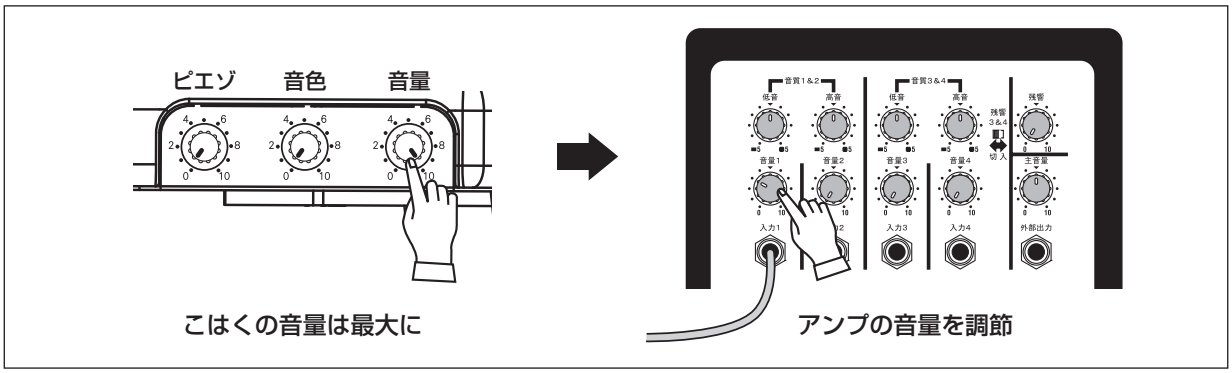
❸ 大正琴の電源スイッチを「ON」にします。



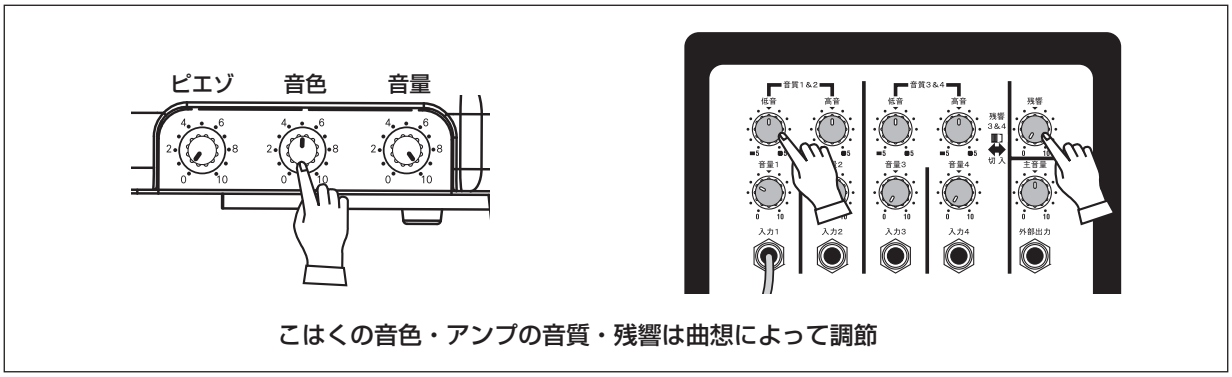
❹ アンプの電源スイッチを「ON」にします。



❺ 大正琴の音量ツマミを最大にして試奏しながら、アンプ側の音量ツマミを音が歪まない程度まで回します。（演奏中の音量調整は大正琴の音量ツマミを使用してください）



❻ 大正琴の音色ツマミと、アンプの音質・残響ツマミは、曲想に合わせて調節すると効果的です。



アンプ接続時のご注意

●乾電池で動作した状態のアンプを使用する場合、電池の容量が少なくなると音が歪んだり、電源ランプが暗くなったりしますので、新しい乾電池に交換してください。電池の交換については、各アンプの取扱説明書をご参照ください。

●アンプSPA-40、レスリー2121の場合は、「入力ジャック1」を使用してください。（9ページの表をご参照ください）
※合奏をされる場合は、大正琴どうし又は他の楽器との音量バランスに注意してください。

●こはくシリーズは、マグネットピックアップにて電気的に音を拡大しています。使用する場所によっては（蛍光灯のすぐ近くなど）、雑音が入ることがあります。大正琴の向き・場所を変えて雑音が入らない場所を選んでください。
注）特にピックアップの近くに電源コードやACアダプタが配置されるとノイズが出やすくなるのでご注意ください。

●アンプの電源プラグの差し込み方向により「ブーン」という雑音（ハム）が入ることがあります。電源プラグ の差し込み方向を左右逆にしてみてください。

演奏の後に

電源について

電源を切るときは、電源を入れる手順と逆の手順でおこなってください。（10〜11ページ参照）

電池交換について（ソプラノ・タイプⅡのみ）

ソプラノ・タイプⅡは、本体に9V乾電池を入れて使用しますが、乾電池の容量が少なくなると、電源ランプの光が弱くなり、音が出なくなったり、ひずんだり（ノイズのような音になる）します。乾電池はお早目にお取りかえいただくことをおすすめします。交換のめやすは下表のとおりです。

明るさ	電圧	状態
☼ 明るく点灯	電圧9V	新品の乾電池を入れたとき
○ 約半分の明るさ	電圧およそ7.5V	電池交換時期です（2〜3時間以内）
● 消灯	電圧およそ7V以下	すぐに電池交換してください

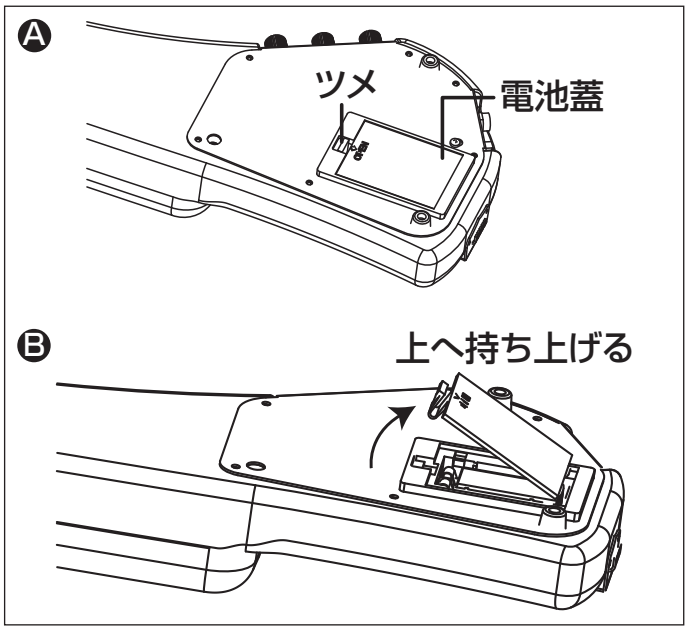
電池交換のしかた（ソプラノ・タイプⅡのみ）

ソプラノ・もしくはタイプⅡ裏面の、電池蓋を開けて乾電池を取り出し、新しい乾電池を入れます。
乾電池は、6F22（006P）タイプのものをご使用ください。付属の乾電池はマンガンですが、アルカリの方が、長くご使用になれます。なお、長期間使用しない場合は、電池を抜いてください。

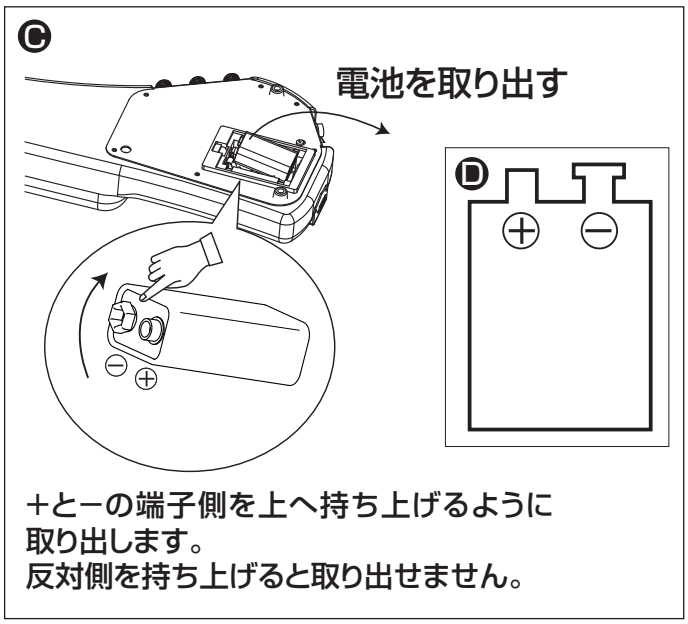
※電池の処分について

使用済の乾電池は「燃えないゴミ」として、お住まいの市町村のルールにしたがって処分してください。

こはく底面の電池蓋の「ツメ」Ⓐに指をかけ、蓋を上へ持ち上げるようにします。Ⓑ



蓋を外したら、乾電池を取り出します。Ⓒ
乾電池を取り出すと、底にⒹのイラストが書いてありますので、極性（＋と－）を間違えないように新しい乾電池を入れ、電池蓋をしっかりと閉じてください。



故障とお考えになる前に

故障かな？と思ったら、もう一度下記の事項をご確認ください。それでも異常がある場合は、接続コードを抜き、電源を切ってお買い上げの販売店または最寄りの営業所にお問い合わせください。

症状	原因	処置
電源が入らない	電池が消耗している	新品の電池に交換してください
	電池が入っていない	電池を入れてください
	電池蓋がしっかり閉まっていない	電池蓋をしっかりと閉じてください
音が出ない	電池が消耗している	新品の電池に交換してください
	電池が入っていない	電池を入れてください
	電池を入れる向きがまちがっている	電池を正しい向きに入れ直してください
	こはくの音量が最小になっている	こはくの音量を上げてください
	アンプの電源が入っていない	アンプの電源を入れてください （アンプとの接続の手順にしたがってください）
	アンプの音量が最小になっている	アンプの音量を上げてください
	アンプとの接続コードが抜けている	接続コードをしっかりと入れてください （アンプとの接続の手順にしたがってください）
ときどき雑音が入る	すぐ近くで電気機器を使用している	離れた場所のコンセントを使用してください
テレビ・ラジオに雑音が入る	すぐ近くで使用している	向きを変えたり、できるだけ離して使用したりしてください
音がびびる	近くに共鳴するものがある	共鳴しているものを遠ざけてください
	こはく又はアンプの音量が大き過ぎる	こはく又はアンプの音量を下げてください
	絃が古くなっている、 または傷んでいる ※フレットレス大正琴は元来生音では音がびびりますが、故障ではありません。アンプから出る音にびびりがないことを確認してください。	絃を交換してください

こはくシリーズ仕様

	ソプラノ	タイプII	アルト	バス
音域	5̣～6̇# 27鍵	5̣～6̇# 27鍵	5̣～6̇# 27鍵	5̣～6̇# 27鍵
絃	第一･二･三(細線) 第四･五(細巻線)	第一･二･三(細巻線)	第一･二･三(細線) 第四･五(中巻線)	第一(太巻線) 第二(極太巻線)
材質	木製ソリッドボディ 木製天板カバー	木製ソリッドボディ 木製天板カバー	木製ソリッドボディ 木製天板カバー	木製ソリッドボディ 木製天板カバー
出力レベル	140mV	100mV	50mV	30mV
出力インピーダンス	100Ω	100Ω	20kΩ以下	20kΩ以下
連続使用時間	約30時間	約30時間	–	–
寸法	74×16×7.2cm	74×16×7.2cm	96×17×7.7cm	96×17×7.7cm
重量	1.7kg	1.7kg	2.4kg	2.4kg
付属品	細線×1･細巻線×1･接続コード･9V乾電池(6F22)･クロス･セミハードケース･ピック×2(中･硬)･調子笛(G)･ベース絃用ダンパー	細巻線×1･接続コード･9V乾電池(6F22)･クロス･セミハードケース･ピック×2(中･硬)･調子笛(G)	細線×1･中巻線×1･接続コード･クロス･セミハードケース･ピック×2(中･硬)･調子笛(G)･ベース絃用ダンパー	太巻線×1･極太巻線×1･接続コード･クロス･セミハードケース･ピック×1(バス専用)･調子笛(G)

アフターサービスについて

1.この商品には保証書を巻末に記載しております。所定の事項の記入および記載内容をご確認のうえ大切に保管してください。

2.保証期間はお買い上げ日より1年間です。保証書の記載内容によりお買い上げ販売店が修理致します。その他、詳細は保証書をご覧ください。

3.保証期間が切れましても、修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

4.アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはもよりの営業所にお問い合わせください。

株式会社 鈴木楽器製作所 〒430-0852 静岡県浜松市中区領家2-25-7 TEL(053)461-2325 www.suzuki-music.co.jp
鈴木楽器販売株式会社

お問合せ
フォーム

事務所移転等のため、住所・電話番号が変わる場合がございます。最新の情報に関しましては、弊社ホームページでご覧いただけます。

2203-1B-APR-MM-097-J
00457-30022